

長野県民手帳の歴史

長野県統計協会

長野県民手帳が初めて発行されたのは、昭和36年（1961年）。

それまでは、主に国・県の統計調査に従事する統計調査員に配布されていましたが、「使いやすい」との評判から県民の皆様の要望で、一般に販売するようになりました。

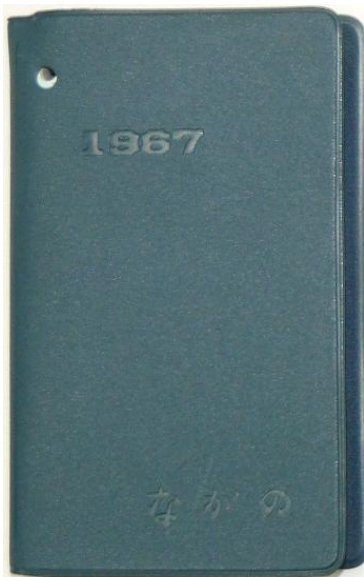
刊行当初から、『市町村別主要統計』や『健康に関する知識』など、日常に役立つ情報や地元に関わった情報を掲載し、その後も社会情勢の変化にあわせ、内容を充実させてきました。

これからも、県民の皆様に愛用され続ける手帳を目指してまいります。

～ 県民手帳の変遷 ～

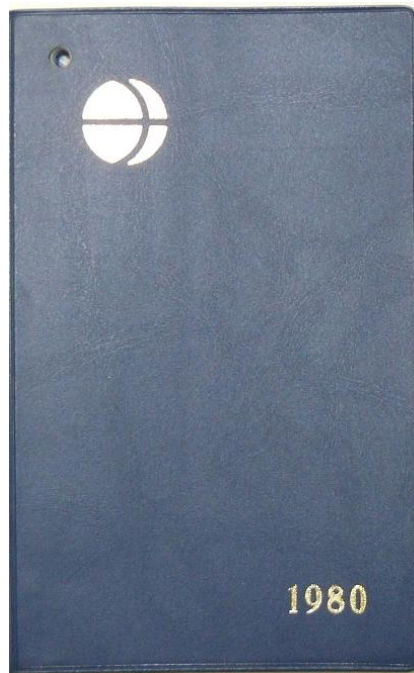
手帳の内容はもちろん、カバーやサイズも年代ごとに変化してきました。ここでは、その一部をご紹介します。

カバーに県章が掲載され始めたのは、昭和43年版から



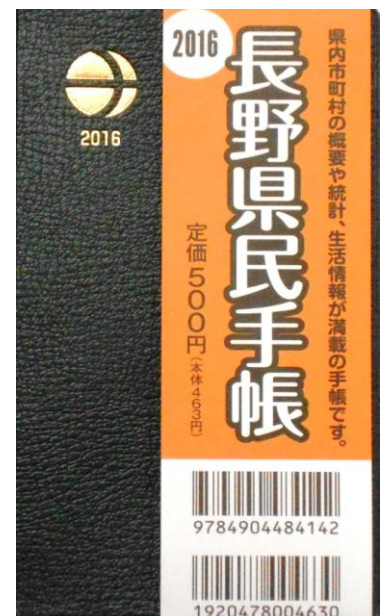
昭和42年(1967年)版
大きさ：12.0cm×7.0cm
資料編等：72頁
販売価格：100円

歴代の手帳のなかでも
大き目サイズの昭和55年版



昭和55年(1980年)版
大きさ：14.5cm×9.0cm
資料編等：77頁
販売価格：300円

昭和56年版から定着した
ちょうどいいポケットサイズ



平成28年(2016年)版
大きさ：13.8cm×7.8cm
資料編等：106頁
販売価格：500円